

沖縄の地域資源の活用・沖縄生まれのおすすめ商品

沖縄情緒たっぷりの ペーパークラフトを開発

沖縄ペーパークラフト

「ミニシーサーの仲間達」と 「進貢船」

活用した地域資源

琉球王国のグスク及び関連遺産群、シーサー制作所・工房・風景、ヤンバルクイナ生息地・飼育地、ヤンバルテナゴコガネ生息地・飼育地

事業概要

沖縄のお土産は多数あるが、有限会社ジグゼコミュニケーションズでは、作って楽しめる沖縄独自の素材に特化したオリジナルティー豊かな商品「沖縄ペーパークラフト」を開発している。



有限会社 ジグゼコミュニケーションズ
代表取締役 我那覇洋二さん

生産者インタビュー

今回開発された商品について

お聞かせ下さい。

今回開発した商品は、ペーパークラフトの「ミニシーサーの仲間達」シリーズ8種と「進貢船」の計9種です。

具体的にはどのようなものですか？

「ミニシーサーの仲間達」は天地左右、奥行きが10cmのオリジナルデザインシーサーで、表情豊かな表現で「和み」「癒し」を醸し出しています。ダイビングをしているシーサーやエイサーを踊っているシーサー、三線を弾いているシーサー等、躍動感を組み込んだユニークなデザインです。作って嬉しい飾って可愛い、見て楽しいをコンセプトに開発しました。一方の「進貢船」ですが、今日の「沖縄」の歴史に深くかわり、さまざまな文化の息吹きをもたらす役割を担っていたかと思えます。「進貢船」については、資料でしか見ることができませんが、資料からおおよそ推察して、また、県立博物館の学芸員の意見を聞いて、船体の組み方を本格的(?)な造りにしました。資料から、船体の大きさを推察し、その大きさを表現するため、比較対象



ミニシーサーの仲間達

できる人物を配しています。いかに「進貢船」が巨大木船であったか、驚きと歴史を感じられます。

開発時の御苦労について

お聞かせ下さい。

これまで、8年間沖縄の文物、首里城正殿守礼門、立体シーサー、面シーサー、ヤンバルクイナを「紙」で表現してきました。累計で2万8千個の販売実績があります。苦労した点は、作品ごとに違った曲線を使い、作品を表現することですね。一番の難問でした。「ミニシーサーの仲間達」においては、A5サイズ2枚と表現できる紙のスペースが限られています。その中で如何にシーサー達に個性をつけるか？また仕上げる時間を30分に設定するという事に苦労しました。

ペーパークラフトで沖縄を表現する きっかけは何だったのですか？

ちょうど20年程前に、初めてペーパークラフトというものに出会ったのですが、息子と一緒にテトラノザウルスを作ったのが最初でした。毎週毎週少しずつ作っていくのですが、完成するのに一月半ほどかかりました。1メートルほどの巨大なものでした。その時に作る面白さ、親子で作る感動を味わいました。その後

沖縄の首里城が世界遺産郡に登録されたのでペーパークラフトで表現できないかと思い、開発に至りました。

今後の展開について
お聞かせ下さい。

文物に関しては本年度中に2種類発表を予定しています。また「ミニシーサーの仲間達」に関しては、海をテーマにした作品を試作中です。今後は琉舞をテーマとした仲間たちを試作中。新たな沖縄の観光土産品になればと思います。また、県外から誘客の商材として、中小企業基盤整備機構さんの協力の下、各方面への販促を強化していきたいと考えております。



進貢船と開発中のミニシーサー

有限会社 ジグゼコミュニケーションズ
〒902-8088 沖縄県那覇市真嘉比86
TEL 098-884-4651 FAX 098-884-4656
http://www.gxe-c.com/